

秋田県知事 佐竹 敬久 様

水道水への農薬混入を防ぎ、農家の負担を軽くして、
子ども達へ安全なお水を届けるご提案

秋田市水道水からネオニコチノイド系農薬「ジノテフラン」が検出された問題で、検出された農薬は稲の害虫の斑点米カメムシを駆除するために使用されたものです。今年の夏も散布が行われ、水道水に流入するのを未然に防ごうと、カメムシ防除を不要にする現実的な提案をさせていただきたいと思えます。これによって子どもたちが農薬を飲んでしまうのを防ぐとともに、本県が農薬の大幅な削減を行い、環境に配慮した米作りを実現しようというのがねらいです。

カメムシ防除が始まる7月下旬～8月中旬まではあまり時間がありません。みなさまのご理解とご協力をお願い致します。

防除を不要にするには防除の目的を知る必要があります。農産物検査法に「着色粒」規定があり、1等米の着色粒混入上限0.1%を超えると2等米に格下げとなる規定です。そのため上限を超えないよう、着色粒(斑点米)の原因となる斑点米カメムシを駆除することが防除の目的です。

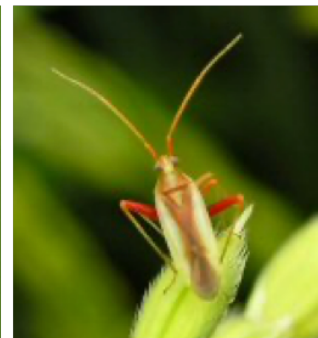
主な斑点米カメムシ



斑点米カメムシ被害による着色粒
秋田県農業試験場



アカヒゲホソミドリカスミカメ
宮城県病害虫防除所



アカスジカスミカメ
宮城県病害虫防除所

斑点米カメムシは匂いを出したり家の中に入ったりすることはありません。

精米工場では色彩選別機を使って異物や斑点米を効率的に取り除いています。



色彩選別機

防除が必要かどうかは「被害額」と「防除費用」の大きさによって決まります（専門用語で「要防除水準」という）。被害額が防除費用よりも小さければ防除は不要です。

農薬を使わずに被害額を小さくすることは可能

現在の2等米価格は、本県JAの場合、1等米価格に比べて玄米60kgで600円安くなります。これが「被害額」です。一方、防除経費は県稲作指導指針に従って農薬を2回散布した場合は60kg当たり約300円です。この場合「被害額>防除費用」となり防除が必要です。

ところが、隣の青森県や高知県などでは1等米と2等米の価格差が300円差です。これらの県では被害額と防除費用がほぼ同額です。「被害額≒防除費用」

提案内容

そこで本提案は、①本県JAも青森と同じように等級価格差を300円差以内に縮めていたただくよう、JA全農秋田を通じて要請を行い、それに加えて、②カメムシ被害で2等米になっても200円差で済むよう、秋田県が60kg当たり100円を交付してはどうかというものです。これによって「被害額<防除費用」となり、防除が不要になります。

必要な予算額

100円の交付に必要な予算額をR4年産で試算した場合、約1600万円ですが、これによって削減できる農薬代は、2019年の延べ防除面積129,445haで試算した場合、県全体で約19億円と大きな効果が見込まれます。これは生産コストの低減、農家所得の増大、環境負荷の低減、の効果があるだけでなく、水道水に入った農薬を除去するよりもはるかに少ない費用だと言えます。

Q&A

「2等米の損失を小さくする案だが、1等米比率が下がるのは問題ではないか」

→ 等級が食味を表すかのような誤解がありますが、等級は玄米取引のための規格で、食味や安全性の確認はしていません。精米すると等級は消えてしまい、消費者にとって意味を持ちません。1等米比率を重視してきたことが農薬の多使用につながってきました。

「防除を止めれば2等米が増えて、必要な予算額も増えるのではないか」

→ 岩手県農業研究センターの論文「アサスジカスミカメによる斑点米被害発生要因の解析」では「殺虫剤による防除の影響は低い」とされており、2等米増加は限定的と考えられます。

「色彩選別機の導入に支援してはどうか」

→ 精米工場には既に色彩選別機が導入されていることから、同じような選別機を各農家が導入する必要は無いと考えます。

2024年5月

提案者 子どもたちサ、安全な水ドゴ届ける会

提案賛成者 住所 _____ お名前（本名以外も可） _____

送付先 〒010-8570 秋田市山王四丁目1-1 秋田県 広報広聴課
FAX: 018-860-1072 E-mail: joukai@pref.akita.lg.jp